



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス まもなくANQ Congress Yokohama 2024 開催
- 2-私の提言 大学の顧客は誰なのか?
- 2-ルポルターージュ 第439回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルターージュ JSQC規格「新製品・新サービス開発管理の指針」講習会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第140回クオリティークルボ
- 4-行事案内/JSQC選書新刊/2024年4月の入会者紹介

まもなくANQ Congress Yokohama 2024 開催

JSQC副会長 山田 秀

2024年9月16日から20日に慶應義塾大学矢上キャンパスにて、Asian Network for Quality (アジア品質ネットワーク、ANQ) の年次大会であるANQ Congress Yokohama 2024が開催されます。このニュースでは、ANQの概要、歴史的経緯などを簡単に触れた上で、直前の開催準備状況をお伝えします。

ANQとは、2001年に設立された品質管理、品質マネジメント、Total Quality Managementの理論と実践を追求する非営利の学術団体からなるネットワークです (<https://anforq.org/index.php>)。ANQには、アジア地区の20の国、地域を代表する非営利学術団体がメンバーとして所属しています。

2001年9月のANQ設立準備会合を経て、2002年7月の正式にANQが発足しました。この発足には、初代議長の狩野紀昭名誉会員、初代事務総長の飯塚悦功名誉会員がリーダーシップを発揮されました。議長の任期は2年であり、2023、2024年の議長組織はJSQC、事務総長を松浦峻理事(慶應義塾大学)が、議長を私が務めています。

ANQ年次大会を通して目指すところは、多くの国、地域から品質管理に関する最新、最高の知を集め、活発な議論を通してアジア全体の品質向上に貢献することです。

ANQ Congress Yokohama 2024は、慶應義塾大学矢上キャンパスで開催されます。このキャンパスは、東急線、横浜市営地下鉄の日吉駅(横浜市)が最寄りであり、そこから徒歩で15分程度の距離です。慶應義塾

大学の理工学部3、4年生、理工学研究科の大学院生、計3500名を超える学生が所属する大きなキャンパスです。なお、2001年9月の日本科学技術連盟でのANQ設立準備会合、2009年の早稲田大学での年次大会があり、日本で3回目の開催です。

Organizing committee (組織委員会)の委員長は若林宏之JSQC会長、委員はANQメンバーの理事の10名です。また、プログラム委員会が運営面を担当しており、主要な役割を次の先生方にご担当いただいています(敬称略)。

論文査読: 森田浩 (大阪大学)
 総務: 山本渉 (慶應義塾大学)
 総会議題: 鈴木知道 (東京理科大学)
 発表議題: 金子雅明 (東海大学)
 参加者連絡: 松浦峻 (慶應義塾大学)
 IT運営: 佐野雅隆 (拓殖大学)
 会場運営: 加藤省吾 (電気通信大学)

ANQ Congress Yokohama 2024の主題はProsperity through Qualityであり、副題が原点回帰とさらなる発展である -Returning to Origins, Leaping into the Future- です。

主題はANQが目指すべきものであり、早稲田大学で開催された2009と共通です。一方の副題には、ANQの設立から20年を超え、その原点のよさと進化を改めて認識し、さらに将来に向けた新たな方向、理論、実践を明確にしようという意思が込められています。

9月18、19日には、全体セッションとパラレルセッションがあります。全体セッションでは、来賓、名誉議長、議長挨拶、キーノートスピーチ、各種表彰、ANQ 2025紹介などがあります。

キーノートスピーチは、4名の方に

お願いしています。JSQCからは、製造の品質という側面で仁科健先生(愛知工業大学)、医療の質という側面で棟近雅彦先生(早稲田大学)にお願いしています。

各種受賞者には、個人の功績を称えるIshikawa Kano Medal、先端的な事例に送られるAsian Recognition on Excellence -Quality Practice, Asian Service Awardがあります。

2024年7月末日現在、約150件の発表と200名を超える参加申し込みがあります。これらの発表は、18、19日のパラレルセッションで行われます。発表時刻などのプログラムは、ANQ congress Yokohama 2024ページで紹介されます (<https://pub.confite.atlas.jp/en/event/anq2024>)。

9月20日(金)に行われる事業所訪問(Technical Site Visit)は、参加者が他国、地域の事業所を訪問する貴重な機会であり、例年多くの申し込み者があります。今回は、SBカワスミ株式会社殿町メディカル研究所、マレリ株式会社児玉工場、日本精工株式会社藤沢工場藤沢技術開発センターが受け入れてくださいました。この場を借りて、受け入れに改めて御礼申し上げます。

キーノートスピーチ、事業所訪問先は製造と医療に関わるものです。ANQ Congress Yokohama 2024の副題の意図は原点とさらなる新たな発展であり、その意味で製造、医療は副題と合致しています。

まもなくANQ Congress Yokohama 2024の開催です。JSQC会員の皆様にとって、アジア地区での実践を知り交流する良い機会になることを確信しています。ぜひともご参加ください。

● 私の提言 ●

大学の顧客は誰なのか？

東京情報大学 佐野 夏樹



「品質とは顧客満足度である」とは、品質管理においては常識かもしれないが、大学における顧客とは誰なのだろうか？

講義や実習というサービスを受けている者という点では、①学生であるが、授業や卒論指導というサービスに対して授業料を支払っている人という点では、②保護者である。社会全体の枠組みで考えれば、教育を受けた学生を企業に提供する点から、③企業を顧客と捉えることもできる。この議論に正解は無いと思うが、私の学生時代に受け

た教育は、顧客として企業を意識した教育が実施されていた様に思う。理想的には、この3つの顧客満足度は、密接につながっており、企業が満足する人材を供給すれば、大学の就職実績も向上し、保護者も満足し、学生も後々考えれば、大学へ行って良かったと満足するはずである。

しかし、現実には①学生と③企業の満足度がトレードオフの関係になりがちであり、①学生の満足度を向上させることが優先されることが多いのではないだろうか？なぜなら、少なくとも筆者の勤務先を含む入学難易度がそう高くない大学では、入学定員をなんとか埋めたとしても、学生が退学してしまうと、定員が満たされなかったのと結果的に

同じことになってしまうためである。

学生の退学理由は様々であるが、授業が理解出来ない、友達が出来ないため等により学生生活が楽しくないという学生が多く見受けられる。そこで、大学では、基礎的な学習内容を補強するリメディアル教育の他、複数回授業を欠席した学生への本人・保護者への連絡、学生間の交流をうながすイベントの開催を実施している。一度大学に来なくなってしまうと、その様な交流イベントには参加しないため、日頃からの未然防止策が必要である。また、本人は大学を辞めたいが、保護者は、子供には大学だけは卒業して欲しいと考えているケースの場合、顧客の要求事項が①学生と②保護者の間でも異なる。

以上の様に現状、筆者は、①学生と②保護者の顧客満足度向上に日々追われているが、③企業の満足度も高い人材の輩出も志に掲げ、この少子化時代における大学の生き残りを図りたい。

第439回
事業所見学会
ルポ鍋屋バイテック会社
関工園

2024年2月28日(水)に鍋屋バイテック会社にて「機械要素部品専門メーカーとしてお客様の成功をサポートする開発・製造・販売体制の取り組み」のテーマで開催、15名が参加した。

最初に事業所内施設を見学させていただいた。事務棟内には日経優秀製品・サービス賞2023の最優秀賞を受賞した炭化ケイ素(SiC)ネジなど、自社製品が多く展示されており、会社の強みである技術力の高さが伺えた。また、全てのデータに価値があるとの考えのもと、デジタル化がかなり進んでいた。例えば、これまでの問合せ内容をデータベースに蓄積し、問合せがきたら、すぐに回答候補をAIが提案する仕組みを構築していた。その後の工場見学においてもクリーンルームをはじめ、様々な製造工程をたいへん興味深く見学させていただいた。見学中、至る所で社員の皆様が見学させてもらったことが印象的で生き生きと働いている会社風土を感じた。

見学後、代表取締役社長の岡本様より会社概要を説明いただいた。創業は桶狭間の戦いの1560年であり、社名の由来は、鍋屋(鍋をつくる屋号)、バイテック(伝統技術×新技術)、会社(会社は社員のもの)とのことで、社員がすべての源泉であり、失敗してもいいからチャレンジさせて会社を発展していきたいなどの想いを語っていただいた。

人材育成にも力を注いでおり、資格取得への補助制度があった。対象資格は約350あり、取得した数だけ毎月手当がでる制度である。これにより、社員に新しいことに挑戦していこうとする意欲が生まれ、考えるクセがつき、勉強を重ねることで、新しいアイデアが思いつくとのこと。実際に制度開始後20年間で売上げが3倍となっている。この他にも感性を磨くためのコンサートホール、美術館など、良い商品は良い環境から生まれるとの社長のお考えを具現化されていた。

帰り際、多くの社員が寒い中わざわざ屋外まで出てきて、送迎バスを見送っていただくなど最後まで本見学会開催にご対応いただいた鍋屋バイテック会社の皆様に心から感謝申し上げます。

渡邊 克彦(トヨタ自動車株)

JSQC規格 講習会 レポート

「新製品・新サービス 開発管理の指針」 一顧客・社会のニーズを基に 新たな価値を創造する一

2024年4月25日(木)、JSQC規格「新製品・新サービス開発管理の指針」の講習会が行われました。

オンラインでの講習会で、参加者は約20名でした。コロナが明け、職場からの参加が6割、残り4割は自宅等からの参加でした。

説明は、当規格内容に基づき説明された。項目は、
1. 新製品・新サービス開発管理の基本、2. 新製品・新サービス開発管理における重要なマネジメント活動の進め方、3. 当管理のためのツールである。特徴として、永原先生の知識、体験談が多く取り入れられていたもので、飽きることなく熱心に最後まで聞いた。私が印象深いと感じた箇所は、設計の標準化と設計プロセスの標準化である。

少し詳しく述べる。設計の標準化は、新製品・新サービスを構成する要素をモジュール化・部品化する事である。更に、従来設計と新規設計を区分すること。これにより設計が合理化される。かつ、設計プロセス内

を分解（構想設計、基本設計、詳細設計）し、技術標準、図面寸法等を決め、設計サーバーに登録し関係者間で活用する。これによって、設計技術の蓄積と伝承が図れ、設計検証が容易になる。

更に、永原先生が最後の20分間に述べられた事は、先生自身の会社実務を通じて、参加者の皆さんに対して源流部門（設計、工程設計部門）への関与によるプロセス改善が非常に重要だと述べた。私も同感と思う。そのためにも、源流部門で再発防止や未然防止が正しく行われ、積み上げて行かなければならない。この積み上げ方については、今後の、私の課題と思っている。

講演最後の質疑応答は30分間で、9件の質問に対して的確に回答された。ただし、1点、7番目の質問が余りに質問の質が十分でないものがあった。回答内容は妥当であったが、回答姿勢が質問者（若者）と同じ目線に立ったものでなかったことが気になった。

全体の感想としては、当規格内容に沿って判りやすく説明され、ご自身の経験談も取り込み、質の高い講演内容であった。本当によい時間を過ごせました。ありがとうございました。

河原 勉（河原品質管理コンサルティング）

第140回 クオリティーク レポート

トヨタ流DXを支える 心理的安全性と仕事の スピードアップを 実現する2つのカタ

仕事帰りの高崎線はいつもより賑やかだったが、私はある本に夢中になっていた。「トヨタ流DXを支える心理的安全性と仕事のスピードアップを実現する2つのカタ」。私は幸運にも第140回クオリティーク（4月26日）で、本作著者の藤原慎太郎先生とトヨタ自動車デジタル変革推進室の島田悟さんの講演を拝聴する機会を得た。

DXにはなぜ心理的安全性が重要なのか、大変興味深い内容だった。

トークの前半では、島田悟さんが「トヨタらしい」デジタル化の定義と、その土台である心理的安全性の推進事例を紹介してくださった。大変革の時代を生きるトヨタの使命である「幸せの量産」、そのDNAである「産業報国」、トヨタのデジタルジャーニーには「トヨタらしさ」が貫かれていた。その基盤となるのが心理的安全性をはじめとする職場風土や働き方だ。変化

が激しい現代では、「アジャイルな働き方」、「話やすさ、助け合い、挑戦、新奇歓迎」といった心理的安全性の要素が必要不可欠だ。「心安ショートムービー」や「心安ドロップス」など、ユニークで印象的な取り組みも紹介された。さらに「お道具箱」の無償公開には、まさに「産業報国」の精神が表れていると感じた。

後半では、藤原慎太郎先生が「2つのカタ」を紹介してくださった。“そもそも目的ってなんだっけ”という問いかけは、私もよく使っていたが、受け手を不安にさせるよりも“知恵比べ”の方が勝っていたことに気づかされた。「ものの言いカタ」を変えないといけないと認識した。また、「仕事の進めカタ」では、仕事を上手に進めるための考え方や手順、それらに見える化した思考ツールが多数紹介された。早速、著書を熟読して「アンケート設計のポイント」をチームで実践した。“アンケート結果の活用イメージ”を十分に膨らませた上で設計に着手したことにより、質の高いアンケートが設計でき、かつチームのコミュニケーションも円滑に行えた。これからは、チームでオリジナルの「カタ」作成にも挑戦しようと思う。

呉 天旭（株資生堂）

行事案内

●第143回QCサロン（関西）

テーマ：「AI時代におけるコト価値づくりと品質保証研究会」からの話題紹介

日時：2024年8月20日(火)19:00～20:30

会場：オンライン (Zoomミーティング)

講演者：猪原 正守 氏 (大阪電気通信大学)

詳細・申込：https://jsqc.org/143qcsalon/

●第135回研究発表会（中部）

日時：2024年8月28日(水)13:00～20:15

会場：名古屋工業大学

詳細・申込：https://jsqc.org/135technical-2/

●第438回事業所見学会（東日本）

テーマ：～閑静な迎賓館で、音に関する品質を考えてみませんか？～
感性にまつわる品質、音の品質

日時：2024年9月6日(金)13:30～16:30

見学先：松本記念音楽迎賓館

(東京都世田谷区)

定員：20名

詳細・申込：https://jsqc.org/438visit/

●第441回事業所見学会（西日本）

テーマ：株式会社デンソー九州の改善活動

日時：2024年9月13日(金)13:00～17:00

見学先：デンソー九州 北九州工場

(福岡県北九州市)

定員：30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください

詳細・申込：https://jsqc.org/441visit/

●第142回クオリティトーク（西日本）

テーマ：「品質の仲間」づくりに向かって

ゲスト：若林 宏之 氏 (JSQC会長)

日時：2024年9月13日(金)15:40～16:40

会場：オンライン (Zoomミーティング)

詳細・申込：https://jsqc.org/142qtalk/

※第441回事業所見学会内で開催する講演をオンライン配信にて参加いただけます

●第136回研究発表会（関西）

日時：2024年9月20日(金)10:00～16:15

会場：関西大学 千里山キャンパス

詳細・申込：https://jsqc.org/136technical/

●第54回年次大会（本部）発表募集

日時：2024年11月9日(土)

会場：東京理科大学 野田キャンパス

(1)申込期限

発表申込締切：9月23日(月)

予稿原稿締切：10月17日(休)必着

参加申込締切：10月30日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

https://jsqc.org/54annual_cfp/

●第11回科学技術教育フォーラム

テーマ：科学技術立国を支える問題解決教育
～子供たちの未来を拓く学校創り～

日時：2024年10月5日(土)13:00～18:10

会場：統計数理研究所大会議室および

オンライン (Zoomミーティング)

詳細・申込：https://jsqc.org/11tqe_f/

事務局

JSQCホームページ：https://jsqc.org/

本部：166-0003

杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟 東高円寺ビル内

E-mail：jimukyoku@jsqc.org

TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

中部支部：〒460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会名古屋支部内

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

TEL：050-1742-6188

FAX：050-3535-8675

関西支部：〒530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

JRE堂島タワー11階

日本科学技術連盟内大阪事務所内

E-mail：kansai@jsqc.org

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書36」好評発売中

●JSQC選書36（148ページ）

書名：統計的工程管理 - 原点回帰から新機軸へ

著者：仁科 健

判型等：四六判、並製本

定価：1,760円（税込）→ 学会員特典価格：1,408円（税込）

申込方法：https://jsqc.org/jsqcselection/

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

2024年4月の入会者紹介

2024年4月22日の理事会審議において、下記の通り正会員11名、準会員20名、職域会員1名の入会が承認されました。

.....
(正会員11名) ○中川 真由香 (ダイキン工業) ○川上 高志 (ジャムコ) ○中村 和彦 (名張中西金属工業) ○原伸夫 (パナソニックホールディングス) ○栗本 賢児 (ジェイテクト) ○篠原 壽邦 (デンソー) ○上岡 健一 (NOK) ○保永 由美 (本田技研工業) ○杉本 恵美 (積水化学工業) ○山極綾子・阪井 優太 (早稲田大学)

.....
(準会員20名) ○松井 千鶴・伊藤 瑠衣斗・高坂 光樹 (名古屋工業大学) ○柏原 英明・市川 蓮也 (電気通信大学) ○高尾 宥圭・古屋 貴啓・浅野 正和 (早稲田大学) ○高津 誠 (静岡大学) ○石橋 樹・関口 健太・揚石 真衣子・岩本 陸・葛原 元・松永 幸哉・竹内 公美 (慶應義塾大学) ○朱 滉顔 (東海大学) ○池内 有人・佐藤 隼亮・杉田 龍星 (東京理科大学)

(職域会員1名)

○井原 望 (岩田硝子工業)

名誉会員：24名

正会員：1612名

準会員：66名

職域会員：51名

賛助職域会員：11名

賛助会員：159社231口

公共会員：12口